

5 よく聞くための方法

実践事例 —— 人の話を「さわやかさん」で聞く

指導計画

「人の話をしっかり聞く」演習を通して、相手と積極的に関わろうとする態度、相手の意見や考えを大切に受けとめようとする姿勢を育む。

めあて	<ul style="list-style-type: none"> ● 聞くことによって、相手と積極的にかかわり、相互理解のプロセスを体験する。 ● 相手から自分に送られたメッセージに積極的な関心を持って聞く態度を育てる。
指導のプロセス	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習のねらいについて説明する。 聞く活動を中心にしたより良い聞き手になる学習であることを伝える。 2 3人の教師と子どもによるロールプレイを行う。 教師は聞かないという態度をとる。耳をふさぐ、横を向く、下を向く、生返事をする、あくびをするなど。 教師の聞く態度に着目させる。 3 子どもの感想を聞く。 4 ワークシートを記入した後、話を聞くときのコツについてグループ、クラスで話し合う。 話し合ってきた内容を短冊などに書き出す。 「さわやかさん」で聞くことを意識して発表させるようにする。 5 「話を聞く」グループワークをする。 2人一組を作る。話し合ったことをいかして一人が話し、一人がよく聞くロールプレイを交代で行う。 6 ふりかえりをする。 聞くことの大切さをふりかえる。 グループワークの感想をワークシートに記入する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的に聞くことの大切さを体験する。 ● 自分が相手の言葉やメッセージを理解するためには、相手に質問したり、受け止めた内容を要約して伝えたりして確認することも大切である。自分が考えたことや感じたことを相手に送り返すことで双方向のコミュニケーションとなることに気づく。



今までみなさんは、相手に自分の気持ちを「さわやかさん」で伝える勉強をしてきましたね。今日は、反対に、相手の気持ちを「さわやかさん」で受けとめるにはどうしたらよいかを考えてみます。

授業の流れ

話を聞いてくれない先生

今日は「人の話を聞こう」という勉強をします。
自分の好きなこと、得意なこと、自慢話でもいいです。
誰か、先生に話をしてくれる人いますか。

うちのお父さんのことだけとね…

先生たちが人の話を聞くのが上手かどうかよく見ていてくださいね。

ねえ、聞いてるの？

先生たちの話の聞き方はどうでしたか。
ロールプレイを見て、感じたことを書いてみましょう。

せっかくいいことも話しているのに3人とも全然話を聞こうとしないんだもん、ひどいな…

「相手がいっしょうけんめい話をしているのによそ見をしていたら、いやな気持ちになると思います」

研究授業でみえていた先生方が、人の話を「聞かない」聞き役となり、デモンストレーションを行いました。子どもたちは一生懸命先生に話をするのですが、3人の先生は、顔をそらしたり、いねむりをしたり、いいかげんな返事をしたりして、真剣に子どもの話を聞いてくれません。

子どもたちはロールプレイを見て思ったこと、人の話を聞くことについて感じたことをワークシートに記入しました。ワークシートには、「いやな気持ちになった」「人の話はきちんと聞かなくてはいけない」「もっといい聞き方をするといい」「ぼくは先生の話をあまり聞いていないから、聞くようにする」といった感想が書かれています。



人の話を聞くと、どんなことに気が付いたら、相手も自分も気持ちよく会話ができるでしょう。グループで人の話をよく聞くためのコツを話し合ってみましょう。

グループになり、ブレーストーミングで意見を出し合いました。「顔を見て聞く」「うなづきながら聞く」「目と耳と心で聞く」「他のことをやらない」「楽しくておもしろい話だったらいっしょに笑ってあげる」「背すじをのばして聞く」いろいろな言葉でワークシートがうまっています。

人の話をよく聞くためのコツ

人の話を聞くと、みなさんはどのようなことを心がけ、どのようなことに気がつけて聞きたいと思いませんか。グループで「よく聞くためのコツ」を話し合ってみましょう。

聖田先生みたいに無視しない(笑)

「無視するのは悪い聞き方だから、相手をちゃんと見て聞くというのがコツだね」

いいなあと思った意見は、ワークシートに書いておきましょう。

まとめてみよう

グループで出た意見の中で、話を聞くときのコツでいいと思うものを、ひとつひとつ短冊に書き出しました。子どもたちが考えた「よく聞くためのコツ」が次々と黒板に張られていきます。



話を聞くときのいいコツだと思うものを、この紙に書いてください。

書けたら、どんどん黒板に張ってください。

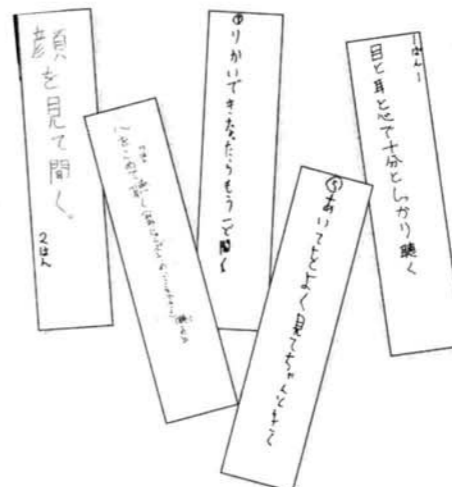


みなさんが考えたよく聞くためのコツを頭に入れて、実際に話を聞く練習をしてみましょう。話を大事に受けとめてもらえると、話をした人はとてもうれしいし、相手とのよりよい関係ができていきますね。

どんなコツがあったかな

それでは、先生が読んでみます。

「耳、十分、目、心で聴く」



みんな視点がすごいですね。先生がよく聞くためのコツをポスターにしたんだけど、見せる必要がなくなってしまいましたね。

実際に話を聞いてみよう

最後に、2人一組になってお互いの話を聞いてみましょう。最初は男の子が1分間女の子に話をしてください。終わったら交代します。

あのね、昨日のことだけだね…

黒板に張り出された「よく聞くためのコツ」を、先生が読んでいきます。「話をしている人を見る」「目をよく見て聞く」「アイコンタクトをする」「話をしている人に耳を傾けて聞く」「聴くという字のように聴く」「相手のことをよく考えて聞く」「理解できなかったらもう一度聞く」…さまざまな表現で、子どもたちは話の聞き方のコツを考えました。

2人一組になって、一人が話し、一人が聞く側になってやってみました。話し役の子は、自分が好きなことや、家であったことなどを一生懸命に話し、聞き役の子は、どの子も相手の顔をしっかりと見て、笑顔で聞いています。

授業を終えて～子どもたちの感想～

- 友だちの話をしっかり聞かなくちゃいけないと思いました。
- すごく役にたちそうで、勉強になりました。
- 先生やみんなの話をもっとじょうずに聞けるようになりたいです。
- 話をするときも、相手の目をしっかりと見るのがよいことに気づきました。
- これからは、友だちや先生の話さをきちんと聞くということを守っていきたいです。